

通信小海

月や星を見て

牧師 水草修治

八月末に野辺山宇宙電波天文台の公開日に家族で出かけてきた。駐車場に集まった車のナンバプレートを見ると、横浜、名古屋、千葉、大阪、九州、北海道からも見学者が来ていたのでびっくりしてしまった。

展示内容は、宇宙そのものよりも電波望遠鏡の仕組みにかんする物理的・数学的な説明が多かったような気がする。「気がする」では頼りないのだが、しろうとははむずかしくてニヤンだかよくわからニヤかったというのが正直なところだった。「猫に小判」である。五歳の息子に「なにが楽しかった？」

【今月のひとしづめ】

「主を畏れることは、知識のはじめである。」箴言一章七節

と聞いたら、「わたあめ」と言った。駐車場であめが売っていたのだ。でも、三日たつてから聞いたらパソコンでやった「宇宙のゲーム」と言っていたから、親よりは吸収したことがあるみたいである。野辺山天文台のみなさんありがとうございました。

ところで八月二十九日、種子島からH2Aロケットが打ち上げ成功した。すばらしい。ただ宇宙の知識が人を愚かな傲慢にふくれ上がらせるのでなく、かえって、万物を創造されたお方への畏敬と謙遜、ほんとうの知恵に導くものであるようにと願うことである。

「あなたの指のわざである天を見、あなたが整えられた月や星を見ますのに、人とは何者なんでしょう。あなたがこれを心に留められるとは。人の子とは何者なのでしょう。あなたがこれを顧みられるとは。」詩篇八篇

日本同盟基督教団 松原湖高原教会 牧師水草修治

牧師館 長野県南佐久郡小海町大字豊里一十六 一

〒三八四一一三 二六七九二四七七六

郵便振替 五三 六一六八三

黄色い十字架 パロの五十メートル北
ヤナシヨウの向かい

集会あんない

日曜日

朝礼拝 午前十時から十一時

夕礼拝 午後八時から九時

水曜日

祈り会 午後七時半

*初めての方も歓迎します。

*聖書を読む会を、八千穂・海尻・小海でしています。お問い合わせください。

*個人的相談にも乗ります。

指導者は正直に

先月号の冒頭の記事について、ご質問をいただいた。靖国公式参拝は過去のことではなく、実際は今後の戦争のためであるということはどういうことなのかということに関して。

昨年「新ガイドライン」(「日米防衛協力のための指針」という軍事同盟文書が両国間で合意された。「新ガイドライン」は、日本が「周辺事態」において米軍を支援する軍事行動を定めている。すなわち、諜報収集、兵站補給、船舶臨検、米兵搜索救難、公海での機雷掃海など。有事の船舶臨検で停船命令をふりきって逃亡を図れば、攻撃し交戦状態に陥ることは必定であるように、これらの行動は敵国との戦闘行為に発展する可能性が高い。当然、米軍と共同戦線をはる日本は敵の攻撃目標になる。新ガイドライン制定を受けて、日米共同戦争を実施するための法律が次々に制定

された。改正住民基本台帳法、スパイ防止法、国旗国歌法である。新ガイドライン関連で残されている法整備は靖国神社の国営化と、憲法第九条の戦争放棄条項の撤廃だといわれる。

こうした文脈から読み取るならば、公式参拝は今後の戦争に備えた靖国神社の国営化の布石であることは明白である。それを隠して、「平和を祈念するため。」と言つのは「国民にわかりやすい政治」を標榜する小泉首相としては名折れであろう。かつての中曽根首相のほつがずつとわかりやすかった。中曽根氏は「戦死者を国が祀つてやらなくては、誰が国のために命を捨てるか！」と公言した。靖国公式参拝・国営化の目的は、今も昔も戦死したら靖国で護国の鬼として祀つてやるから、安んじて敵戦艦に突っ込め！」と、青年の戦意を高揚させることにほかならない。首相の政策に関して、国民一人一人がどういう判断をするかは違つてあろう。ただ、国の指導者としては、国民をごまかしてはいけない。自らの政策の意図について正直に発言する義務があると思つのだが、いかがだらう。

お米を小海町役場へ

お米の収穫の季節がやってきました。倉庫に古いお米の眠っている方は、地にまいてしまつのでなく、山谷で明日の食物に困っている人々のために寄付していただけてませんか。しょうか。よろしくお願いいたします。

小海町役場のご協力で、役場の倉庫になりました。お米をお持ちいただく前に、役場に電話をいただけるとありがたいです。

*小海町役場 電話九二二二五二五

*車で運べない方は、山谷福祉会館の藤田さんが伺います。

藤田寛 電話 四二七八六二一 八八

*カンパしてくださる方は次の口座へ。

〒振替 二四一四一五三七九六

山谷農場

変えられた人

それからイエスは、エリコにはいつて、町をお通りになった。ここには、ザアカイという人がいたが、彼は取税人のかしらで、金持ちであった。彼は、イエスがどんな方か見ようとしたが、背が低かったので、群衆のために見ることができなかった。それで、イエスを見るために、前方に走り出て、いちじく桑の木に登った。ちょうどイエスがそこを通りすぎようとしておられたからである。

イエスはちょうどそこに来られて、上を見上げて彼に言われた。「ザアカイ。急いで降りてきなさい。きょうは、あなたの家に泊まることにしてあるから。」ザアカイは急いで降りてきて、そして大喜びでイエスを迎えた。これを見て、みなは、「あの方は罪人のところに行って客となられたといつてつばやいた。ところがザアカイは立って、主に言った。「主よ。ご覧ください。私の財産の半分を貧しい人たちに施し

ます。また、だれからでも、私がかまし取つた物は、四倍にして返します。」イエスは彼に言われた。「今日、救いがこの家に来ました。この人もアブラハムの子なのですから。人の子(私)は失われた人を捜して救うために来たのです。」

ルカ福音書十八章

ザアカイという名は和名にすれば清さんに当たります。親はきつとこの子が心清く生きて行くことを願って、この名をつけたのでしよう。ところが、親の願いもむなしく、ザアカイは町一番の嫌われ者となつてしまいました。彼があえて取税人という職についたからです。

当時、ローマ帝国は属州から税金を搾り取るために、その徴税を属州民に請け負わせました。取税人の収入は徴税したものからのピンはね分でした。当然、ユダヤ人の印象では、取税人とは「売国奴かつ守銭奴」。ザアカイはその取税人のかしらでした。主イエスを迎える沿道の人々が、背の低いザアカイのために道をあけてやらなかったのは、こんな理由があつたのでしよう。カネ欲しさに祖国を売り渡した罪人、それがザアカイに貼り付け

られたレッテルでした。

ところが、いとまきよらかな神の御子イエスは様によりによって、なんと、このザアカイに声をかけ、さらに彼の家の客となるとおっしゃつたのでした。周囲はおどろき不平を言いましたが、一番おどろいたのはザアカイです。彼は感激し、主イエスを我が家にそして、彼の心にお迎えしたのです。

すると、彼に何が起つたのでしょうか。ザアカイはみずから進んで、後生大事に握りしめていたカネを貧しい人に施そうという心ひるやかな人に変貌したのです。ザアカイが貧者に慈善をなすといった立派なことをしたから、イエス様が彼のところに来てくれたのではありません。イエス様がザアカイの家に、ザアカイの心に来てくださったので、彼は善をなす人になつたのです。自分のような罪人にも注がれている神の愛を知つたとき、彼は新しくなつたのです。

「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去つて、見よ、すべてが新しくなりました。」

赤とんぼ

「ただいま。トンボとってくる。」先月末、五つになった末息子は、今、とんぼ取りに夢中である。保育園から帰ってきては、夕食時まで毎日とんぼとりをしている。朝も、である。朝食もそこに、外に飛び出してトンボ取りである。取ってきたトンボは家の中で放して家の中でもう一度つかまえて、窓からはなしてやる。トンボはえらい迷惑だろう。

この子は、障害をもって生まれてきた。小耳症という障害で、片方の耳が生まれつきうんと小さい。一人に一人という障害だそうである。多くの場合、心臓の病気と合併することが多いそうだが、息子は耳だけですんだのはめぐみだった。だが、からだのアンバランスのせいであるう、生まれの数ヶ月、寝ているときはいつも左ばかり向いていて夜泣きをするので、心配したものだだったが、一度整体に行きそれほどなく治った。これも感謝。

五年前、この子が小海の日赤病院で生まれたとき、心のなかに「ああ私たちもやつと神様に認めていただいたのかなあ。」ということとばをつぶやいた。私たち夫婦には、重い障害を負った子どもを育てている友人夫婦がいく組みかいる。脳性小児麻痺の息子さんをかかえた友人、自閉症児をもつ友人。ところが、その夫婦、その家族が不思議なように、なんと心のきれいな方たちだった。胸の内に流した多くの涙が、この人たちの心を洗ったのだろうか。そして、家内とよく、「神様は、あの夫婦だからこそ、あの子を託されたんだらうね。」と話していた。

だから、うちに障害をもつ子が生まれたとき、思いがりかもしれないが、そう、きつと思いがりなのだろうが、なんだか神様から「よし。お前たちにもこの子を託すよ。」と言っていただけのような気がしたのである。

この子はきつと悩む日が来るだろう。友達にでもからかわれたのか、今もたまに「ぼくのこっちの耳はなかなか大きくならない。いやだ。」というのを聞けば不憫である。いずれ手術のことも考えてはいるが、親としては何よりも神に祈らないではいられない。神の

ことばである聖書には「神を愛する人々、すなわち、神のご計画にしたがって召された人々のためには、神はすべてのことを働かせて益としてくださる」と約束されている。この御言葉を思い出すと、心が平安になる。神様は、この子を愛して、この子に益をお与えになろうとして、このハンディもお与えになったのだと信じられるからである。

壁にぶつかって、あなたも人知れず涙することがあるかもしれない。「なぜ、こんなことが？」と天に向かってつぶやきたくこともあるかもしれない。しかし、人生の不条理に向かつて「なぜ？」と問うても答えは帰ってこない。だが、主イエスのもとに来るならば、苦しみや悲しみも、父なる神はきつと益と変えてくださる。あなたも主イエスのもとに来て、この人生いっしょに歩みませんか。

「かなしみ尽きざる憂き世にありても
日々、主と住まえば、御国の心地す。
ハレルヤ 罪とが消されしわが身は
いづくにありても御国の心地す。」